

## ABO血液型

静岡県立静岡がんセンター  
梁瀬 博文

## 配布試料

- 試料41 A型
- 試料42 B型
- 原料 日本赤十字社譲渡血  
試料41 Ir-RCC A型 FFP-LR240 A型  
試料42 Ir-RCC B型 FFP-LR240 B型
- 参加施設 61施設  
日常おこなっている検査基準に沿って検査を  
すすめ報告することとして実施

## 検査方法

検査方法	施設数(%)	
	オモテ試験	ウラ試験
試験管法	29 (47.5%)	34 (55.7%)
カラム凝集法(ビーズ)	19 (31.1%)	18 (29.5%)
カラム凝集法(ゲル)	9 (14.8%)	9 (14.8%)
スライド法	4 (6.6%)	0 (0.0%)
ペーパー法	0 (0.0%)	0 (0.0%)
合計	61 (100.0%)	61 (100.0%)

## 回答状況

- 試料41
 

判定結果	施設数(%)
A型	61 (100.0%)
判定保留	0 (0.0%)
- 試料42
 

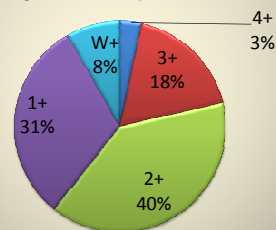
判定結果	施設数(%)
B型	49 (80.3%)
判定保留	11 (18.0%)
AB垂型	1 (1.7%)

## 結果評価

- 試料41については問題なし
- 試料42ではウラ試験の反応性が弱い検体であったため、判定保留とした施設が11施設、AB垂型とした施設が1施設認められた。  
今回はいずれも不正解として線を引かせていただいた。しかし、施設毎の環境によってその線引きは異なるため、最終判断は報告書を見て、今回の報告で良いのか、改善点があるのか判断する必要がある

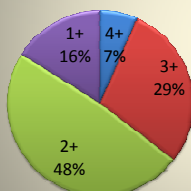
## 試料42解析

ウラ検査:A血球との反応性

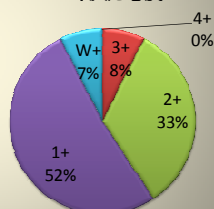


## 方法別反応態度

試験管法  
A血球反応態度



カラム法  
A血球反応態度



## 試料42の結果解釈

- 反応態度によるがAB垂型が疑われるものの、試験管法等の再検を加えることでB型と判定した施設は問題ないとする
- \* ウラの反応が弱く再検査等をして血液型を判断していない施設は問題あり
- 試験管法等の再検を実施できる環境になく判定保留とした施設は、そのような状況下では血液型が確定できなかったと考える

## 考察

- 今回の試料42は通常よく遭遇するウラの反応の弱いB型であった。  
試験管法で再検し、ウラ試験に少し反応時間を設けることで容易に反応強度が強くなり確定することが可能  
追加検査で吸着解離試験、レクチン検査を実施している施設も見受けられた。  
追加しているのかかわらず、判定保留に据え置いている施設も認められている

## まとめ

配布試料はすべて日赤譲渡血を使用し、なんら加工することなく配布している

ABO血液型ウラ試験において、反応強度によって明確に判定保留とする判断基準は現在ないものの、少なくともB型と製品化されているものを、血液型判定できないことは問題と考えている

試験管法とカラム法の特徴を理解し、実施することで、判定保留という結果を減らすことが可能である

安易に判定保留という結果にしてしまう事は、輸血を必要とする患者にとって有益ではない。自施設の環境等を考慮し、判定保留ととどめるべきだったのか、血液型を判定すべきであったのか判断し、結果を受け止めていただきたく思う